



津波災害に備えるために

作成：滑川市防災危機管理課
(TEL 076-475-0573)

地震や津波はいつ発生するか、わかりません。
自分の命を守るために、日頃から備えておくことが大切です。

災害リスクの把握（自助）

- 自宅や学校、勤務先など普段生活している場所が「津波浸水想定区域に該当するかどうか」
まずは『津波ハザードマップ』で確認しましょう。
- 避難行動の注意点や情報収集の方法を『防災パンフレット』で確認しましょう。



避難場所や避難行動の検討（自助）

- 地震による津波災害を想定し、あらかじめ「どこへ」「どのように」
避難するのかを、家族や近隣の方と話し合っておきましょう。
 - 自動車での避難は様々なリスクを伴うため、やむを得ない場合を除き、徒歩で避難しましょう。
平時から、浸水の恐れのない安全な場所を一時避難場所と想定し、徒歩避難してみましょう。
※一時避難場所は、災害から命を守るために一時的に避難するための場所です。
 - 地震が発生し津波災害が想定される場合は、ただちに次のいずれかの避難行動を取りましょう。
 - ・津波が到達するまでに、津波浸水想定区域外へ避難できる → 水平避難を選択
 - ・倒壊、流出の恐れがある場所（老朽家屋や平屋など）にいる → 近隣の高い建物へ垂直避難を選択
 - ・倒壊、流出の恐れがない建物の 2 階以上にいる → 在宅避難を選択
 - ・避難している間に津波に巻き込まれる可能性がある → 自宅の 2 階など在宅避難を選択
- ※想定外の津波による浸水に備え、可能なかぎり「津波浸水想定区域外」に避難しましょう。
※詳しくは、裏面の避難行動の流れをご確認ください。

地域における協力体制づくり（共助・近助）

- 平時から地域の防災訓練や行事に参加して、地域や近隣の方とコミュニケーションをとり、
いざという時に相互に協力し合える体制をつくっておきましょう。

【参考】津波の高さ（浸水深）と被害の目安 ※『浸水深』：実際に上陸する津波の高さ

イメージ	浸水深の目安	被害の目安	注意報・警報の種類
	5.0m (2 階軒下まで)	木造家屋のほとんど (2.0～2.5mで約70%) が流出・全壊	大津波警報 (3.0m～)
	3.0m		津波警報 (1.0～3.0m)
	2.0m (1 階軒下まで)	木造家屋のほぼ半数 (～2.0mで約40%) が流出・全壊	
	1.0m	津波に巻き込まれると命を落とす (0.3m～) 避難できなくなる	津波注意報 (0.2～1.0m)
	0.5m		

【 地震(津波発生時)避難行動の流れ 】

作成：滑川市防災危機管理課

